



## 土木技術者としての 誇りを大切に



田代 民治

土木学会 第104代会長

毎年、土木学会定時総会に参加して感じるのですが、昨年度の土木学会賞を見ましても、北陸新幹線（長野―金沢間）開業、上野東京ライン開業など土木技術者が強靱な国土形成、人びとの生活利便性向上に貢献していると実感するとともに、北海道・北陸・九州新幹線の延伸、リニア中央新幹線、東北・九州の復興、東京オリムピックに向けた道路・基盤整備など、これらも土木技術者としての腕の見せどころと思っています。

しかし、昨今の建設業界を眺めますと、マンション杭打工事の問題、空港地盤改良工事の施工不良問題、橋梁落橋防止装置の溶接不良問題、建設中の橋桁落下事故など、残念な問題が多発しており、信頼性の低下などを危惧しております。

これらの問題を解決するために

基本的な要素として求められることは、われわれ自身が土木技術者としての誇りを持つこと、持てる努力をすることではないでしょうか。そのためには土木工学に関する広い知識と技術を習得するとともに、さらに、一つの専門分野について、これだけは誰にも負けなと言え自信を持つことが必要ではないかと思っています。これは長年にわたりダム工事に携わってきた自らの経験上、強く感じるところです。

土木技術者としての誇りは、技術力の向上につながります。他の産業界はまさに熾烈な技術競争の中で発展しています。土木業界では、すぐに他産業ほどの技術競争は無理とは思いますが、仲良く横並びとなりがち傾向から脱却して、技術競争に徹していくことが必要です。技術競争ができなければ、コストのみの競争しかありま



私が携った温井ダム (広島県山県郡加計)

せん。コスト競争のみでは、働く人が疲弊しますし、土木界のさらなる発展にはつながりません。一方、技術競争は必然的に公共事業の透明性向上につながり、土木界のさらなる発展につながるものと信じています。さらには、海外でも通用する技術力の育成となり、真の技術力を駆使して世界に挑戦していくことができるのだと思います。

私事になりますが、35歳の時、スイスで開催された国際大ダム会議に初めて参加しました。その際、偶然出会ったオランダ人の老夫婦に職業を尋ねられ、自分がシビルエンジニアであることを伝えると、「シビルエンジニアは本当に素晴らしい」と言われて、大変驚いたことがあります。後から先輩に聞いて知ったのですが、自然を相手に取り組むのがシビルエンジニアであり、この価値が社会的

に広く認識されているため、ヨーロッパ、特にオランダではシビルエンジニアの地位が非常に高いそうです。

かつてはわが国でも、土木技術者は社会的に高い評価を受けていましたし、数々の偉業が現在に伝えられています。そうした時代と現在で何が違うのかを突き詰めてみると、個々の技術者が持つ誇りの強さではないかと思うのです。

今後、特に次世代を担う若い土木技術者たちには、技術の「広がり」を習得するとともに、自信の源泉となる「深さ」も兼ね備えた技術者を目指してもらいたいと思います。その上で、社会基盤整備の必要性や大切さを忘れずに、自然に立ち向かって、使命感をもって真摯に取り組んでいくことが、次世代につながる土木界の原動力となると信じています。